

1. 概要

- ・令和5年度の駐停車車両の実態調査を受け、利用度の低かった旧大沼前の切り込み停車帯の空間利活用の検討に向け、歩行空間の拡張と滞在空間の創出を社会実験として実施した。

○実施日時

- ・社会実験期間：令和6年9月24日（月）～ 10月11日（金）
- ・期間中は常設

2. 歩行空間の拡張

- ・歩行者が通行できる空間を1.4mから2.0mに拡張した。
- ・社会実験期間中、拡張した歩行空間を利用する歩行人が確認できた。



▲拡張した歩行空間を利用する歩行者



▲通常時と実験時での歩行空間の比較

3. 自転車道の振り替え

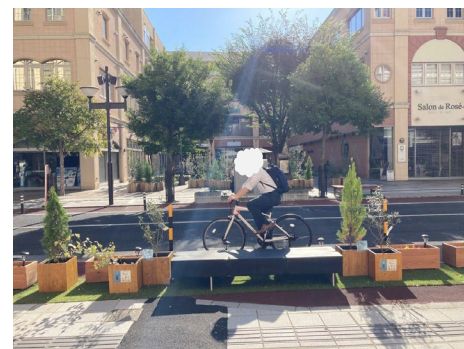
- ・滞在空間の設置にあたり、停車帯を活用して既存の自転車道を車道側に振り替えた。自転車道の利用者の安全確保の観点から車道側にボードを設置し、路面標示やサイン等による誘導も行った。
- ・振り替えた自転車道は従来の自転車道より直進性が高く、期間中、問題なく自転車道として活用された。



▲振り替えた自転車道



▲自転車道を通行する自転車①



▲自転車道を通行する自転車②

4. 滞在空間

- ・滞在空間の創出では、ほっとなる広場との緑の繋がりを意識し、常緑の樹木を配置した。また、ベンチと自転車道の間に緩衝帯を持たせるため、草花などプランター植栽を配置し、緑化を図った。その他、都市空間に合うデザインで柔らかい素材のストリートファニチャー（ベンチ）を設置した。
- ・プランターは木材の物を使用し、園芸用の土を入れることで簡単に動かないようにした。ストリートファニチャーは動きにくい重量のあるものを活用した。
- ・実験期間中、設置したプランターやベンチによる事故やけがの報告はなく、強風時でも風に運ばれたり転倒などは見られなかった。



5. 滞在行動調査

滞在行動調査日時

調査日：9月28日（土）、9月30日（月）

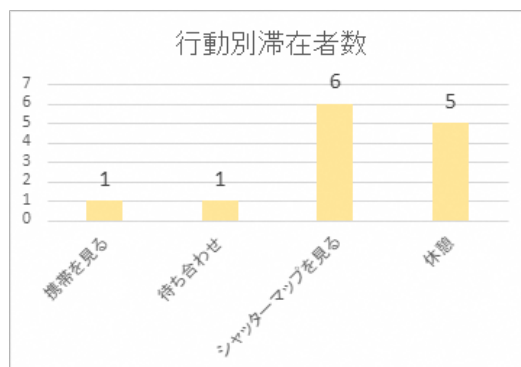
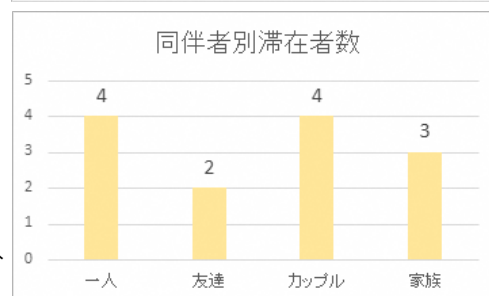
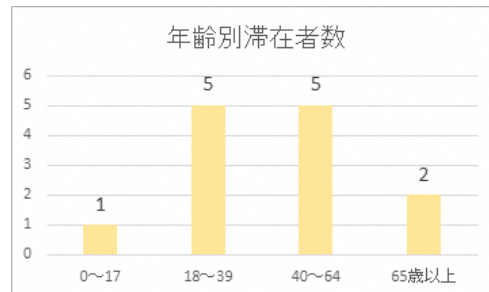
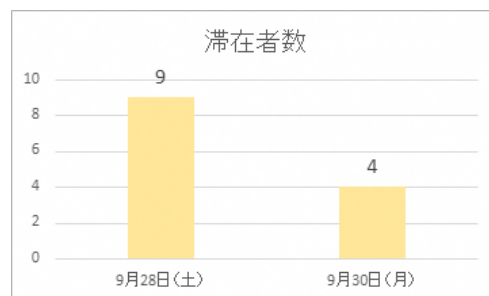
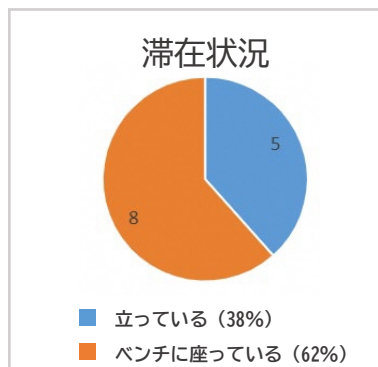
調査時間：9時～17時

- ・「滞在者」の定義はこれまでの七日町大通りでの社会実験と同様に「3分以上その場に留まっている人」とした。※
- ・1日あたり4名～9名の滞在が確認され、平日と休日のどちらでも滞在行動を確認できた。
- ・年齢別や同伴者別で滞在者を見てみると、年齢や同伴の有無に関係なく、多様な層が滞在空間を利用していた。
- ・滞在者の行動を見てみると、旧大沼のシャッターマップ（城下町やまがた探検地図）を眺めている人の割合と休憩での利用が目立つ。
- ・滞在時の状態では、「ベンチに座っている」が62%で、「立っている」が38%であった。なお、ここで言う「立っている」は、本社会実験で拡張した歩道部に立ち止まっている状態を指す。



▲ベンチに腰掛け、シャッターマップ（城下町やまがた探検地図）を眺めている

※現在の「まちなかの居心地の良さを図る指標」では、滞在者の定義を「その場で立ち止まり何かしらの活動をした人」であるが、過去の調査と対比するため「3分以上の滞在」とした。



6. 得られた知見と今後の方向性

○得られた知見

- ・対象地は利用度の低い旧大沼前停車帯を活用することで、旧大沼前の歩行空間拡張と、自転車道の振り替えを行うことが可能である。滞在空間についても、社会実験期間中の18日間、人工芝・植栽プランター・ストリートファニチャーを常設することができた。
- ・対象地は、歩行者通行量が比較的多い場所に位置しており、歩行者による小休憩や、落ち着いてマップを見るためのポケットパーク的な利用が見られ、今後も沿道空間としての利用は見込まれることが予想できる。
- ・また、イベント時は道路側を向いて座る利用者も見られた。道路を活用したイベントの多い七日町大通りでは、背もたれの無いタイプのベンチを活用することで、通常時とイベント時での併用に期待できる。



【参考】車道側を向いて利用されるベンチ

○今後の方向性

- ・荷捌き車両の実態調査の結果や本社会実験の結果を受け、ほこみち制度の利便増進誘導区域の追加指定及び占用主体による長期的な利活用が考えられる。